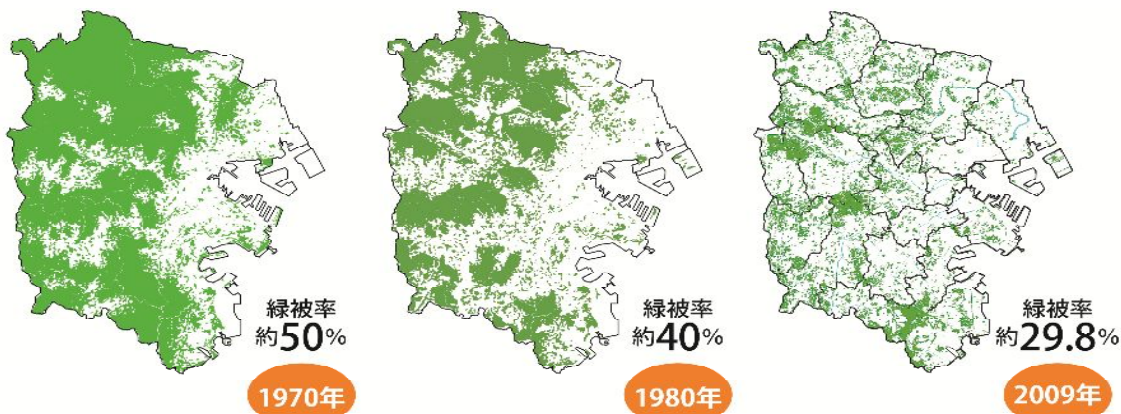


横浜市は神奈川県東部に位置し、面積 434 ㎢の市域に人口 369 万人、神奈川県の面積の 18%に人口の 40%を有する市です。昭和 40 年代以降の高度経済成長期に大規模な住宅開発が進み緑は減少し続けており、毎年約 100ha の山林農地が失われています。1970 年には市域の 50%を

占めていた緑地（樹林地、農地、公園緑地等）は、2007 年には 30%を切るまでに減少しています。横浜市では、みどりアップ計画として、まとまった規模の樹林地や農地を保全し、適切な維持管理を行うことにより、自然と人が共生する里山が身近にあるまち・横浜を目指しています。



横浜市の緑の変遷 ＊調査年度により手法や精度が異なるため、概ねの傾向を示したものです。

横浜の樹林地は、もともと里山として使われておりクヌギやコナラを主体とした雑木林や竹林、スギなどの植林地が大部分を占めていますが、林業目的や薪炭林として森を手入することが行われなくなり、手入れされず荒れていく雑木林や竹林、スギヒノキ林が増加し、かつての里山の美しい景観や自然が失われつつあります。また、住宅地に近い場所にある森では不法投棄や防犯面での問題、外来生物の増加による生態系への影響など、多様な問題も生じています。

そのような中で、近年市民による森づくり活動が活発に行われており、そのサポートとして、横浜市では「横浜市森づくりボランティア団体育成・支援要綱」に基づき、市民の森や都市公園等で活動する団体に対して、道具の貸出や研修の実施、アドバイザー派遣などの支援を行っています。団体のスキルアップを目的とした研修では、平成 22 年度は、草刈や伐採等の森づくり作業における安全管理や、竹林管理作業の基礎、生物多様性を高めるための管理作業などをテーマに行いました。



スキルアップ研修（植生復元を目的とした草刈）

横浜のような都市では森は市民生活に近接して存在し、土地所有者、森づくり活動をする人、自然観察をする人、ウォーキングやランニングにくる人など、多くの人が様々な形と思い関わっています。都市にある森のあり方は、周辺住民や利用する市民にとっての安全性や快適性、また



スキルアップ研修（竹林管理作業）

生物多様性など多くの面で検討すべき時期にきています。市民と行政の協働により、森の将来像を考えて森づくりを進めてまいりたいと考えております。

（横浜市環境創造局みどりアップ推進課

森づくり担当）